※令和４年度以降入学生用

学校番号	1004

令和５年度　数学科

教科	数学科	科目	プレアドバンス数学	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書							
副教材等	基礎と演習　チャート式数学Ⅰ・A（白色）（数研出版） 基礎と演習　チャート式数学Ⅰ・A完成ノート（白色）（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・筆記用具、授業用のノート、自習用ノートを必ず用意してください。
・「問題を解く→答え合わせをする→やり直す」ことを実践しましょう。
　ただ問題を解くことに満足せず、やり直しまでやり遂げましょう。
・教科書の基本例題をまず自学自習してみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。
・ノートや問題集、宿題などの提出物は必ず提出するようにしましょう。
・分からないときは先生、周りの生徒に積極的に質問し、最後まで諦めずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

式の計算、実数、１次不等式、集合と命題、２次関数、三角比、データの分析について
(1)　発展的な知識や技能を習得する。
(2)　事象を数学的に考察する能力を養う。
(3)　数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする態度を身に付ける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	式の計算、実数、１次不等式、集合と命題、２次関数、三角比、データの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、発展的な知識を身に付けている。また、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	式の計算、実数、１次不等式、集合と命題、２次関数、三角比、データの分析において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	式の計算、実数、１次不等式、集合と命題、２次関数、三角比、データの分析の考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	式の計算、実数	整式の加法と減法 整式の乗法 因数分解 実数 根号を含む式の計算	a: 式を用いて事象を適切に表現することや見通しをもって式を扱うこと、そして、乗法公式や因数分解の公式などを用いて、式を目的に応じて変形することができる。 b: 文字の表し方や一つの文字に着目したり、一つの文字に置き換えたりするなどして、いろいろな式の見方をすることや、目的に応じて、的確に式を変形する方法を考察することができる。 c: 具体的な事象の考察に式の展開や因数分解などを活用しようとしている。	確認テスト 定期考査	確認テスト 定期考査	提出物の内容 観察
	1次不等式	1次不等式	a: 数量の関係を１次不等式で表したり、不等式の性質を基にして、1 次不等式を解いたり、1 次不等式の解を数直線上に表したりすることができる。 b: 1 次不等式の解について、数直線と対比したり、いろいろな数値を代入したりして考察することができ、不等式の性質を等式の性質と対比して捉え、不等式の性質を基にして、1 次不等式の解き方を考察することができる。 c: 1 次方程式の解を求めることができ、数量の関係を不等式で表すことのよさを捉え、それらを具体的な事象の考察に活用しようとしている。	確認テスト 定期考査	確認テスト 定期考査	提出物の内容 観察
	集合と命題	集合 命題と条件 命題と証明	a: 与えられた二つの集合の共通部分や和集合、補集合などを求めたり、簡単な命題やその命題の逆・裏・対偶について真偽を証明したりすることができる。 b: ベン図などを用いて数学の対象を整理しそれらを多面的・統合的に見たり、事象を命題として表現し、考察したりすることができる。 c: 集合の包含関係と命題を関連付けて捉え、それらを命題の考察に活用しようとしている。	確認テスト 定期考査	確認テスト 定期考査	提出物の内容 観察

※令和４年度以降入学生用

2学期	2次関数	2次関数のグラフ 2次関数の最大･最小 2次関数の決定	a: 2 次関数$y = ax^2 + bx + c$ のグラフと$y = ax^2$ のグラフの位置関係を調べることができる。 b: 2 次関数の式とグラフを関係付けて考察することができる。 c:1 次・2 次関数とそのグラフについて関心をもち、それらを 1 次・2 次関数の考察に活用しようとしている。	確認テスト 定期考査	確認テスト 定期考査	提出物の内容 観察
	2次方程式と2次不等式	2次方程式 2次関数のグラフと x 軸の位置関係 2次不等式	a: ２次関数のグラフを用いて、２次関数の最大値･最小値や２次不等式の解を求めることができる。 b: ２次関数の値の変化の様子や２次不等式の解について、グラフを用いて考察することができる。 c: ２次関数の値の変化に関心をもち、具体的な事象の考察に２次関数や２次不等式を活用しようとしている。	確認テスト 定期考査	確認テスト 定期考査	提出物の内容 観察
3学期	三角比	三角比 三角比の相互関係 三角比の拡張 正弦定理･余弦定理 三角形の面積	a: 直角三角形を用いて考えられる計量の問題を、三角比の記号を用いて表現し処理することや相互関係を用いて三角比の値を求めるができる。 b: 図形の相似の考え方を用いて、直角三角形の辺の比を角との関係で捉えることや相互関係について考察することができる。 c: 鋭角の三角比、相互関係に関心をもち、それらを直角三角形の計量に活用しようとしている。	確認テスト 定期考査	確認テスト 定期考査	提出物の内容 観察
	データの分析	データの整理、代表値 データの散らばりと四分位数 分散と標準偏差、データの相関	a: 散布図を描いたり、相関係数を求めたりすることができる。 b: 散布図や相関係数などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。 c: 散布図や相関係数などを用いてデータの相関を把握し、それらを事象の考察に活用しようとしている。	確認テスト 定期考査	確認テスト 定期考査	提出物の内容 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度